埼　玉　新　聞

（9）　地　域　２０１７年（平成２９年）１２月９日（土曜日）

得意分野伸ばしたい

浦和高等学園 生徒2人が参加

異才発掘プロジェクト 専門学習環境を提供

その子の得意な分野を伸ばし、世界で通用する人間に―。東京大学先端科学技術研究センターと日本財団は4年前から特定分野に強い興味関心を寄せる子どもたちに、専門的な学びの環境を提供する異才発掘プロジェクト「ROCKET」を展開している。さいたま市浦和区の浦和高等学園からは、2人の生徒が参加。学校とは異なるカリキュラムに日々刺激を受けながら、将来の夢を思い描き、歩みを進めている。（勇有花子）

プロジェクトに参加する浦和高等学園高等部1年生の中江川宙樹さん（右）と牧野由弥さん＝さいたま市浦和区本太の浦和高等学園

プロジェクトは、自ら学ぶ意思を持っているにもかかわらず、学校教育が合わないために、十分な学習の機会を逃してしまう子どもたちを募り、その子に合った教育環境を提供していく取り組み。原則小学3年～中学3年を対象に毎年、全国から約30人を募っている。

取り組みに昨年から参加するのが浦和高等学園高等部1年生の中江川宙樹さん(16)と牧野由弥さん(16)。2人とも学校の授業とは違った学習環境に魅力を感じ、応募した。

「自分の好きなことを責任を持って学びたかった」と話す中江川さんは、「マインドクラフト」などのゲームプログラミングを学び、プロジェクト外でも自身の活動の幅を広げる。現在はインターネットで仲間を募り、新たなゲームのプログラミングの立ち上げにまい進。「同じことに興味があり、技術の高い人たちと知り合うことで、自分のレベルも上がる」と力を込める。

牧野さんは、学びの場のフィールドを広げるきっかけづくりにプロジェクトを活用。参加前、自身が興味のある科学の情報は本でしか得ることができなかったが、参加した後は一変。「（プロジェクトでは）常に最新の生の情報を、プロの専門家から聞ける。それが刺激。好奇心のままに自分の好きな研究をしていきたい」と目を輝かせる。

「ユニークさゆえに、そこになじめない子どもたちに自由な学びのスタイルを」を趣旨に、展開する異才発掘プロジェクトに、同学園の菅野愛也学園長も賛同する。

県によると、約5500人の小中学生が学校に登校できずにいる（2015年度時点）。同学園は通信制高校技能連携校の高等部のほか、フリースクールの中等部も運営している。菅野学園長は「これからは枠にはめた学びの場を提供する指導者でなく、その子その子の得意なことを引き出す『コーディネーター』としての指導者が必要になっている」と話している。